
俺は探偵だ！！

ちょこ丸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺は探偵だ！！

【Nコード】

N5169V

【作者名】

ちよこ丸

【あらすじ】

探偵事務所『THSKM』の仲間たちが繰り広げるバカみたいに遠回りのする推理劇を一度ご覧ください

プロローグ「俺たちは……」(前書き)

ちよこ丸つす!!

いやー、推理小説やってみたくて書きちゃいました。

駄文覚悟でお読みください

プロローグ「俺たちは……」

俺の名前は田宮涼平だ。たみやりょうへい

唐突だが、俺は探偵だ!!

ちゃんと仲間もいて事件だって解決してきている。

たとえば……あれ? 思い出せない……。

ま、まあ、とりあえず、探偵をやっているといことだけは信じてほしい。

では、仲間を紹介しよう。

探偵事務所の中にあるソファーに寝っ転がって漫画を読んでいるのは桃伊太郎。ももいたろうみんなからは桃太郎と呼ばれている。

身長が低くて身が軽くすばしっ来いので偵察や尾行などが得意だ。

ダイニングキッチンでお茶を煎れてくれているのは探偵事務所での唯一の女子の河内愛華だ。かわうちあいか

ターゲットが男の時にはいつも活躍してくれる。

事務机にパソコンなどをセットしてオンラインゲームをやっている
眼鏡野郎は、さかきはらたくと榊原拓斗。

情報収集などは拓斗の右でる奴は居ないと思う。

少し空いたスペースにトレーニング機器を設置していつでも筋トレ
をしているマツチヨ野郎は萩村剛毅だ。

喧嘩などの肉体労働を得意としている。

こーんな、仲間を持つ俺はこの探偵事務所のリーダーなのです!!

こんな奴らといるとちょっと影薄そうに思えるかもしれないけど、
俺は想像力抜群、手先が器用と、いうことでちょっとした小道具な
どを作っている。

他にも愛華と同じで俺も顔が良く背が高いのでターゲットが女の
きは俺が動く。

そして、俺の武器は推理力!!

やっぱこれでしょ!!

結局おいしいところをもっていくのは俺なんですよ!!

まあ、こんな俺たちがやっている探偵事務所『THSKM』をよろ
しく!!

第一話「依頼主登場！」

俺たちの探偵事務所は学校の近くにあるちょっとしたビルの地下にある。

実は俺たちを雇っている人（俺たちはオーナーと呼んでる）のもっているビルでバーやラーメン屋などを経営しており、ビルの一番上の階にオーナーの部屋がある。

依頼者はまず、オーナーのところに行って依頼を受けてから俺たちのところへ来る。

だから、オーナーが事件を選ぶといってもいいだろう。

なので、俺たちはオーナーが選んだ事件を解決してる。

だから、俺たちの知らない事件は沢山あると思う。

（コンコンッ）

ほら、来た。依頼者が来たみたいだ。

愛「はい、どうしました？」

「ごちゃっってお客をお迎えするのは愛華の担当だ。」

依頼「あ、あの、調べてもらいたいことがあって」

愛「じゃあ、お話を聞いてもいいですか？」

依頼「はい」

そう言っただけ依頼者は話し出した。

その様子を部屋に取り付けられている数台のカメラで撮影する。

今の時点でちゃんと話しを聞いているのは愛華ぐらいだろう。

リーダーのくせに話しを聞いてないのはきっとダメだろうが拓斗が会話の様子を撮影しているのであとからそれをみればいいだけだ。

人当たりのいい愛華が依頼者の緊張をほぐしてできるだけ詳しく情報を聞き出してくれる。

だから、依頼者が来たときにこの二人がいないとすっげえ困るんですよー！！

俺と桃太郎と剛毅はこの時は役立たずだ。

さてと、依頼者がいるけど眠いからちよっただけ寝るか。

第二話「痴漢はいかん!!」

愛「涼平、起きろ!!」

涼「わっ!!」

びっくりしたあゝ。

別に驚かさなくても起こせるだろうが。

めっちゃ耳元で大声出しやがって・・・

愛「依頼者が来てるのに爆睡するとか考えられないんだけど」

涼「だって、俺暇なんだもん」

愛「暇って・・・少しは依頼者の話も聞いたらどうなの?」

涼「・・・ごもつともな意見です」

愛「罰として事務所の掃除をしてもらいます」

涼「い、いや事務所の掃除って昨日桃太郎がやってたじゃん」

愛「じゃあ、バーで軍資金を稼いでくる?」

涼「そっちの方がいいです!」

愛「じゃあ、ラーメン屋のおじさんに働けるように言っとくから」

涼「ちよ、ちよつとまった！なんでラーメン屋なんだよ！さっきバ
ーって言ったじゃん！」

ラーメン屋の仕事って大変なんだよ！！

暑いし重労働だし暑いし・・・

バーの方が楽なんだよ！！

愛「バーじゃ、爆睡した罰にならないじゃん」

涼「ぐっ！！！」

桃「涼平、諦めてラーメン屋に行きなよ」

涼「い、嫌だ・・・！！」

あそこのおっさんめっちゃこき使うし恐いんだよ・・・！！

愛「剛毅、涼平をラーメン屋に連れてって」

剛「了解」

涼「ちよ、剛毅も裏切るのか！！」

剛「なにが裏切るだ。お前が寝たのが悪いんじゃないか」

涼「せ、正論だ・・・」

桃「涼平、しつこい。さっさと働いてこい」

拓「そうだよ。依頼が来てるんだからなるべくはやく解決しないと」

愛「そついうことだから、さっさとラーメン屋に行つてきなさい」

涼「そ、そんなあああああ！！！！」

そんなこんなで俺はラーメン屋に連れて行かれたのだった。

桃「で、今回の依頼内容は？」

拓「簡単に言うと痴漢だよ」

愛「依頼者の名前は佐々木（ささき）椋子（むぎこ）さん、22歳で加瀬岩（かせいわ）大学の生徒だつて」

剛「相手は男ってことは愛華がおとりになればいいってことか」

愛「そついうこと、だから作戦の中心は私になる」

桃「まあ、最終的に作戦を決めるのは涼平なんだけどね」

拓「それにしても痴漢とは・・・」

剛「痴漢はいかん!!」

「「「・・・」」」

剛「なんか視線が痛い・・・」

「・・・」

涼平「助けてくれええええええええええ!!」

ラーメン屋には涼平の叫び声が響いたとき

第三話「作戦会議!!」

ああー、づがれだああああ．．．．．。

涼「あ、愛華さん．．．。任務、か、完了で、す．．．」パタッ

桃「あらら、涼平のやつ倒れたよ。よっぽどラーメン屋のおっちゃんにしがかれたんだな」

愛「はあ、入り口で倒れられるのも迷惑なんだけどねー。剛毅、涼平のやつソファーまで運んで」

剛「へいよー。ったく、これから事件のこと話し合わなくちゃいけないってのに」

桃「ははっ、涼平は大変だね」

桃太郎のやつ他人事だと思ってー!．．．まあ、他人事なんだけどさ．．．。もうちょっとだけ心配ってゆうか労いの言葉の一つでもかけろってんだ。

拓「さてと、涼平も戻ってきたことだし事件のことを話すね」

桃「おお！拓斗すげえー！」

愛「でも、涼平たちが来るまでどうすんの？」

拓「そこは大丈夫だろ。愛華も素人じゃないんだから持ちこたえろぐらいできるだろ」

愛「なっ！危険なのは変わりないじゃない！！！」

桃「愛華は大丈夫だよ。力は男なみだから」

愛「桃太郎、ラーメン屋で働きたいみたいだね」

桃「……………すみませんでした」

なんだかんだで騒がしい作戦会議が終わった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5169v/>

俺は探偵だ！！

2012年1月6日01時45分発行